

# 幼稚園教諭に求められるピアノ弾き歌いの技術と その指導法に関する一考察 —幼稚園実習第2段階における課題を分析して—

## A Study on the Technique of Sing with a Piano Required for Kindergarten Teachers and the Teaching Method —Analyze the Subject in the Second Stage of Kindergarten Training—

多田 純一  
TADA Junichi

キーワード：ピアノ，弾き歌い，幼稚園教諭，指導法，音楽教育

Key Words : Piano , Sing with a Piano , Kindergarten Teacher , Teaching Method , Music Education

### 1. はじめに

本論の目的は、幼稚園実習第2段階におけるピアノ弾き歌いの課題について分析することにより、幼稚園教諭に求められる弾き歌いの技術とその指導法を考察することである。

奈良佐保短期大学（以下、本学とする）における幼稚園実習第1段階と第2段階の違いについて、実習担当者の増井啓子は次のように説明している。

第1段階の実習で目指すものは、幼児教育の実際に触れ、観察実習、参加実習などの機会を通じて幼児理解を深めることである。また、実習生としての自覚をもち、指導教員の実践に学び、指導教員の指導・助言のもとに活動や仕事の一部を分担していくことである。第2段階では、それぞれの園がもつ教育理念や特徴を理解すること、また、幼稚園教員として必要な専門性と実践力を身に付け、自己の課題に気付き、問題解決への様々な方法を学ぶこと、そして、教員としての役割を認識し、幼児教育に対する意欲と責任感を高めることを目指している。第2段階の実習では、第1段階の実習での経験や学びをもとに、専門職としての力量と自覚を育むことが目標となる<sup>1)</sup>。

この目標の傾向は現在も変わっておらず、最新のハンドブックにも「第1段階実地実習（見学・観察・参加）」および「第2段階実地実習（部分実習・全体実習）」と記載されている<sup>2)</sup>。

本論が考察する弾き歌いについて、幼稚園実習第1段階では、天野蝶作詞、一宮道子作曲《おべんとう》と《おかえりのうた》のいずれか、あるいはこの2作品のみが実習先から指定される場合が多い。それは、1年生で実施される最初の実習であることから、幼稚園という場で保育者としての視点を持って過ごすこと、こどもと積極的に関わることが重視されることから、実践的な音楽の演奏技術までは求められていないことに起因していると考えられる。しかしながら、部分実習を行うことが前提であり、翌年には保育者として現場に立つことを想定して行われる第2段階では、「専門職としての力量と自覚を育む」ことから、領域「表現」の一環としての音楽の演奏技術が求められ、たいいていの場合において複数の作品が課題曲として実習先から提示される<sup>注1)</sup>。このことは、幼稚園教諭として、最低限必要な演奏技術が提示されていると考えて問題はない。しかしながら、その課題曲として学生に与えられる作品の数や難度には個人差が生じており、求められる演奏技術はさまざまである。本論では、アンケート結果から得たデータをもとにして、幼稚園教諭に求められる弾き歌いの技術について考察し、その指導法を検討する。

## 2. 先行研究と本論で使用するアンケート調査概要

### 2-1 先行研究

弾き歌いに関する先行研究について、論文検索サイト CiNii Articles (NII 学術情報ナビゲータ [サイニィ]) において「弾き歌い」を検索すると、205 件が表示される<sup>注2)</sup>。さらに「幼稚園 弾き歌い」に絞ると30件<sup>注3)</sup>、「実習 弾き歌い」では18件<sup>注4)</sup>となっている。これらの先行研究のうち、近年のアンケート調査を行った研究では、ピアノの演奏技術の習得の背景と在学中における取り組みおよび歌唱に対する意識について考察した諸井サチヨによる研究<sup>3)</sup>、ピアノ学習に対する意識調査からアクティブ・ラーニングを取り入れる方法を提示した中村礼香による研究<sup>4)</sup>、幼稚園実習において行った弾き歌いに対する自己評価とその楽しさに着目した南谷悠子による研究<sup>5)</sup>、幼児教育・保育現場における弾き歌いの必要性に関する意識調査を行った上で相田裕美作詞、宇野誠一郎作曲『アイアイ』などを例にして難解だと感じられる箇所を検討した足立広美と大澤のり子による研究<sup>6)</sup>、などが挙げられる。しかしながら、いずれも実習先から提示される作品についての分析と検討までは行われていない。幼稚園実習における、実習先から課題曲として提示される具体的な作品とその傾向まで言及した研究では、教育実習についてのアンケート結果から弾き歌いの事前指導の在り方を考察した金指初恵による研究<sup>7)</sup>、ピアノおよび弾き歌いの指導法について考察した荒木美知子ほかによる研究<sup>8)</sup>、栃木県下の私立幼稚園における実習課題曲について考察した石塚将之と岡泉志のぶによる研究<sup>9)</sup>、入学前の教育から入学後の授業への連携およびピアノ教育と音楽教員の役割について考察した原友美と西出悦子による研究<sup>10)</sup>、が重要である。いずれの研究でも、学生からのアンケート調査に基づき、具体的な作品と、課題曲として指示される数が示されている。和田垣究らによる研究<sup>11)</sup>では、大阪市立54園の幼稚園園長に対してのアンケート調査を実施し、幼稚園教諭に望まれるピアノおよび弾き歌いの技術については報告されているが、具体的な作品名までは示されていない。

これらの研究の中でもっとも新しい成果である2019年に発表された原と西出による研究では、2年生における2回目の幼稚園教育実習を終えた学生にアンケート調査を行い、課題曲について表にまとめている。先行研究として、前述した荒木ほかの研究および石塚と岡泉による研究を挙げた上で、「朝のうた」「おべんとう」「おかえりのうた」の3曲は、事前に実習先から最も多く与えられる課題曲であり、先行研究とほぼ同じデータであることが明らかになった<sup>12)</sup>と述べている。原と西出による論文の表1に示された作品から多い順を抽出すると、《おべんとう》15人、《おかえりのうた》11人、《朝のうた》10人と続いている。また、それとは別枠として「季節の歌」が17人となっており、表3には「季節の歌」とその他に分類される作品を含む計26作品が示されている。

原と西出が先行研究として示さなかった金指による研究では、「実習園から、事前に楽譜を頂いて練習しておくように指示されたり、事前に言われていなかったが実習中に弾き歌いした曲名と人数」<sup>13)</sup>として表が示されており、事前に指定されていない場合は内訳として括弧書きで示されている。平成17年度入学の実習生と、平成18年度入学の実習生のそれぞれに対して数が多い順に示されており、平成17年度入学生の場合は、《おべんとう》26(7)人、《おかえりのうた》<sup>注5)</sup>20(5)人、高すすむ作詞、渡辺茂作曲《おはようのうた》<sup>注5)</sup>17(3)人と続き、平成18年度入学生の場合は《おべんとう》25人、《おかえりのうた》24(3)人、高すすむ作詞、渡辺茂作曲《さよならのうた》<sup>注6)</sup>14(1)人となっている。3番目に多い作品がいずれも《朝のうた》ではないところが前述の研究とはやや違った傾向であるが、いずれも生活に関わる作品である点において一致している。

### 2-2 本論で使用するアンケート調査概要

本論で実施した「幼稚園実習における「弾き歌い」に関するアンケート」は、2019年6月上旬から下旬にかけて行われた幼稚園教育実習第2段階の対象者に行った。こどものための歌は、同じ作品名でも違う作詞者および作曲者による作品が複数存在することから、詳細が判明しない場合に回答者に質問することを踏まえ、記名式とした。以下にアンケー

トの内容を記載する。

#### 1. 本アンケートの目的

幼稚園実習における実習先から指定された「弾き歌い」の課題についてまとめることで、どのような「弾き歌い」の技術が幼稚園現場で実習生に求められているのかを考察し、論文としてまとめる。

#### 2. 本アンケートのデータの使用方法

本アンケートに対する回答に見られる作品名との指定回数を研究データとして使用し、施設や回答者の名前は一切公表しない。提示された作品について研究者から質問する場合があるため記名によるアンケートとするが、どのような場合においても論文内において個人名が特定できないことをここに明記する。

#### 【アンケート内容】

##### ①名前（フルネーム）

②実習先から指定された「弾き歌い」課題の作品をすべて記入してください。

③指定された「弾き歌い」課題の作品とその数は、実習に行く時点での自身の演奏技術に適したものでしたか？いずれかに○をしてください。

##### 課題曲の難度

易しい	やや易しい	ちょうど良い	やや難しい	難しい
-----	-------	--------	-------	-----

##### 課題曲の作品数

少ない	やや少ない	ちょうど良い	やや多い	多い
-----	-------	--------	------	----

④自由記述（指定された課題曲の難度や数について感じることを書いてください）

対象学生：本学2年生 幼稚園教育実習第2段階「教育実習Ⅱ」配属者57名

実習期間：2019年6月3日から6月22日<sup>注7)</sup>

実習先：奈良県、京都府、大阪府の計28園

調査期間：2019年5月29日から6月26日

回収率：68%（39名）

### 3. アンケート結果にもとづく考察

#### 3-1 課題曲の指定数とその内容の傾向

本論では、アンケートの「質問②実習先から指定された「弾き歌い」課題の作品をすべて記入してください」で記載された作品を、文末の「別表1 実習先から指定された「弾き歌い」の課題曲」としてまとめた。回答があった39名に対して57作品、162件が示されている。平均すると、ひとりあたり約4作品ということになる。指定数の多い順は《おべんとう》31人、《おかえりのうた》22人、《さよならのうた》と《おとうぼん》が9人、「任意の季節の歌」7人と続いており、《おべんとう》と《おかえりのうた》といった生活に関する作品が多く指定されているという結果は先行研究と同様である。《さよならのうた》は金指による研究<sup>7)</sup>における平成18年度入学生と同様、平成17年度入学生では4番目に多いこと、原と西出による研究<sup>10)</sup>でも同様に4番目位置していることから、ほぼ同様の結果であるといえる。《おとうぼん》のみが先行研究と違った結果を示しており、原と西出による研究および金指による研究では表に含まれていない。石塚と岡泉の研究<sup>9)</sup>では、10地区に分けられた表のうち1地区で7位3名、2地区でそれぞれ9位2名となっている。原と西出による研究<sup>10)</sup>において、最も多く与えられる3曲のうち《朝のうた》は、本学では6番目に多く5名が指定されている。これらのことから、生活に関わる作品が重視され、付点のリズムが用いられている作品が一致している点において、本学の学生に求められる演奏技術は、概ね他の幼稚園教諭養成機関の学生と同様であると言える。ただし、《おとうぼん》については付点のリズムが用いられず、4分音符と8分音符で成立していること、左手の伴奏も主要3和音で構成されている作品であることから、演奏技術の個人差が配慮されている可能性も同時にみられる。

続いて季節に関する作品について考察する。原と西出による研究<sup>10)</sup>において別枠で示された「季節の歌」は、本学でも同様に任意の形で指定され、4番目に多く7人が指定されている。原と西出は「実習が秋なので、「まつぼっくり」、「どんぐりころころ」や「やきいもグーチーパー」等がうたわれている」<sup>14)</sup>と述べている。文末の表1からわかるように、6月に実習が行われる本学の場合は、「任意の季節の歌」とは別に、《かたつむり》5番目6人、《ながぐつマーチ》6番目5人、《あめふりくまのこ》7番目4人などのように、6月に合わせた季節の作品が指定されている。本学と同じく6月に実習が行われたと思われる金指の研究では「かたつむり」「あまだれポッタン」「ニャニョの天気予報」「雨降り熊の子」など、6月という季節を意識した曲が多い<sup>15)</sup>と分析され、さらに「すてきなパパ」「時計の歌」「大きな古時計」が多いのは、6月には「父の日」や「時の記念日」があるためであろう<sup>15)</sup>と述べられている。本学の学生に指定される「季節の歌」も同様の傾向であると言え、実習が行われる季節や月によって変化する可能性高いと思われる。

また、宗教に関わる作品も指定されている。《のんのののさま》、《仏の子供》はそれぞれ2名、1名のみにもみられるのは《黙想の歌I》である。宗教に関わる作品が指定される点も、先行研究と同様である。原と西出は「東海3県の実習園は私立が多い。「明るく思いやりのある子」や「感謝する心」「いたわる心」が育つよう「ののさまに」や「恩徳讃」などを園歌としている園もあった」<sup>16)</sup>と説明し、金指は「設立が仏教やキリスト教など、宗教の理念に基づく幼稚園の場合は、「お祈りの曲」「黙想の曲」「ののさまに」「天のおとうさま」などの楽譜が事前に渡されている」<sup>17)</sup>と述べている。石塚と岡泉は、仏教系の幼稚園において《おべんとう》とは別に、三橋あきら（本多鉄磨）作詞、本多鉄磨作曲《おべんとうのうた》が歌われることが多いことを指摘している<sup>18)</sup>。

これらのことから、生活に関する作品、季節に関する作品、宗教に関わる作品、のいずれの観点からも、本学の学生に対して指定される弾き歌いの作品の傾向と求められる演奏技術は、やや地域差は見られるものの、先行研究とほぼ同様の傾向を示していると考えて問題はない。

その他、1名のみにも指定されている作品は34作品である。《おお牧場はみどり》や《ピクニック》のように半世紀以上にもわたり歌い継がれてきた作品から、《にじ》や《ホ！ホ！ホ！》のように、近年、好まれて歌われている作品までさまざまであり、一定の傾向は見られない。それぞれの幼稚園において、『幼稚園教育要領』における領域「表現」の2内容の(6)「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう」<sup>19)</sup>などのための工夫がなされ、その工夫が教育実習における弾き歌いの課題曲に反映されていると考えられる。

### 3-2 指定された課題曲に対する学生の意識と指導法

前節で考察した通り、本学の学生に対して幼稚園実習第2段階において実習先から指定される作品は、他の幼稚園教諭養成機関とほぼ同様の傾向を示しており、《おべんとう》と《おかえりのうた》は必須の作品であると言える。これらの作品の指導は、すでに演奏することができる場合を除き、たいていは2年生前期で履修する「保育（表現・音楽）」<sup>注8)</sup>における個人レッスンにて行われる。本学ではグレード1から10作品<sup>注9)</sup>、グレード2<sup>注10)</sup>以上から10作品の計20作品を弾き歌いできるようにし、発表会において演奏することで単位認定となる。発表会では、自作曲1作品と選択曲3作品をエントリーシートに記入し、発表会当日にくじをひくことで選択曲3作品のうち1作品が決定する。このシステムは、前任の音楽専任教員である吉田直子が実施しており、選択曲を5曲から3曲に減らした以外はそのまま踏襲したものである。グレード2以上の作品は、演奏技術に合わせてグレードを設定しているが、そのリストに入っていない作品を選曲することも可能である。そうすることにより、「保育（表現・音楽）」が実施される2年生前期の間に行われる幼稚園実習第2段階において、実習先の幼稚園から指定される作品に、臨機応変に対応することが可能になる。それにより、文末の別表1において1名のみにも指定されている34作品以外の、どのような作品が指定された場合にも柔軟に対応している。難度に応じて担当教員が

その作品のグレードを決定し、発表会の自作曲や選択曲に含むことも可能である。

必須の作品である《おべんとう》と《おかえりのうた》で多くの場合に第1の問題となるのは、付点のリズムである。歌うだけなら問題はなく、付点のリズムを感じることに問題が生じない。現代のJ-POP作品にみられる旋律のリズムは複付点やシンコペーションなどを多用しており、はるかに複雑なリズムの組み合わせの場合が多いからである。それに比べると、付点8分音符と16分音符が組み合わされるだけのリズムは、むしろ単純なリズムである。しかしながら、このリズムの通りに指を動かし、且つ歌うという演奏技術は、まず指の身体運動として難しく、さらにその難しい身体運動に合わせて発声するという技術を伴わなければならない。反復して練習することによりこの第1の問題が解決されると、第2の問題が表れる。その第2の問題とは、弾き歌いではなく、前奏終わり部分における「さんはい」という声掛けと共に、こどもの方を向いて歌うという技術である。この技術が本論で着目する指導法のひとつである。弾き歌いは、その行為そのものが演奏者による独立したものではなく、こどもが歌うことを援助するという行為であり、主体者となるのは弾き歌いに合わせて歌うこどもである。そのため、第2の問題を解決することは、単に弾き歌いするだけでなく、歌唱指導する方法論のひとつにあたるのである。

この演奏および指導技術が備わっている上で、実習園から指定される作品の数と作品の難度について、学生はどのように感じているのだろうか。

指定される作品が少ない順に挙げると次のようになる。指定なし2名、1作品2名、2作品8名、3作品5名、4作品10名、5作品3名、6作品2名、7作品以上7名、である。4作品を指定された人数がもっとも多く、前節で述べた「ひとりあたり約4作品」という平均値が裏付けられている。この4作品を指定された10人の課題曲についての質問への回答は、難度については「ちょうど良い」5名、「易しい」3名、「やや易しい」1名、未回答1名となっている。作品数については、「ちょうど良い」5名、「やや少ない」3名、「やや多い」1名、未回答1名である。作品を見てみると、《おべんとう》は10名全員に、《おかえりのうた》は7名に指定されている。その他の作品では《さよならのうた》、《おとうばん》、「任意の季節の歌」、《かたつむり》の順に指定されている。この結果から読み取れることは、必須の作品である《おべんとう》と《おかえりのうた》に加えて「季節の歌」や同じ難度の作品2作品が指定される程度であれば、平均的に学生にとって無理なく対応できる範囲であるということである。

次に人数が多い2作品が指定された8名の回答を考察する。難度については「ちょうど良い」4名、「易しい」2名、「難しい」1名、未回答1名となっている。作品数については、「ちょうど良い」3名、「少ない」2名、「多い」1名、未回答2名である。作品を見てみると、6名が《おべんとう》と《おかえりのうた》であった。その6名のうち1名が「難しい」と回答している。この回答は、弾き歌いの演奏技術の個人差とピアノ演奏に対する苦手意識を示していると考えられる。

逆に、7作品以上を指定された7名はどのように感じているのだろうか。難度については「やや難しい」3名、「ちょうど良い」2名、「やや易しい」1名、「難しい」1名とばらつきがみられる。作品数については、「多い」5名、「ちょうど良い」1名、「やや多い」1名、である。作品数が「多い」と感じてはいるが、それほど「難しい」と感じている訳ではないと読み取ることが可能である。「難しい」という回答の作品を見ると、難易度の高い《あめふりくまのこ》と《大きな古時計》が含まれている。その一方で、《ピクニック》、《おお牧場はみどり》、《ぼくのミックスジュース》など、高度な演奏技術を要する作品が複数指定されている学生は「やや難しい」、「やや多い」と回答しており、ここでも2作品が指定された場合と同様にピアノ技術の個人差がみられる。第1段階において、幼稚園側が把握した個々のピアノ演奏技術に合わせて課題が指定されている可能性が考えられる。

### 3-3 指導法と今後の課題

先に述べたように、本学では「保育（表現・音楽）」において計20作品の弾き歌いが単位認定の前提となる。その弾き歌いはこどもを主体者としての演奏および指導の技術が必

要であるが、幼稚園実習第2段階における弾き歌いの課題について、学生のアンケート結果を分析する限りでは、本学の学生にとって無理のない範囲で課題が提示されていることがわかった。その実技能力を持って、さらにレパートリーを増やしていくのは実習後、卒業までの期間、あるいは就職してからでも可能である。

次の課題は、《おべんとう》と《おかえりのうた》といった日々歌われる作品ではなく、こどもがまだ学んでいない作品を教える指導法の技術の習得である。《かたつむり》や《あめふりくまのこ》を例に挙げると、6月という梅雨の季節の自然に触れることからつなげれば、単に歌うだけでなく、季節を実感し、この作品の背景を感じながら歌うことになる。そのことは領域「環境」との連携を伴う。また、《大きな古時計》では、その歌詞の背景とストーリーについて絵本などを用いて説明することにより、領域「言葉」に加え、領域《人間関係》とも関連付けることが可能である。このように、弾き歌いの技術を習得するだけでなく、その指導法、すなわち教え方論を学ぶ必要があるのである。上記に示した内容は、シラバスにも示している通り、部分的には「保育（表現・音楽）」において行われている。しかしながら、「保育（表現・音楽）」ではその課題の十分な提示と達成にまではたどり着いていない。そのため、他の領域と関連付けた指導案が作成することができることを目的とした、領域「表現」における「音楽」の指導法を学ぶ場として、「保育（表現・音楽）」とは別の、指導法に特化した科目が必要であると考えられる。

#### 4. まとめ

本論の目的は、幼稚園実習第2段階におけるピアノ弾き歌いの課題について分析することにより、幼稚園教諭に求められる弾き歌いの技術とその指導法を考察することであった。そのために、先行研究に示される必須であると思われる弾き歌いの作品と、アンケート結果から判明した本学の学生に指定された作品について考察した結果、生活に関する作品、季節に関する作品、宗教に関わる作品、のいずれの観点からも、本学の学生に対して指定される弾き歌いの作品の傾向と求められる演奏技術は、やや地域差は見られるものの、先行研究とほぼ同様の傾向を示していることが明らかになった。《おべんとう》と《おかえりのうた》は必須の作品であり、この2作品については1年生の早い段階から対応することが望まれる。

続いて、指定された課題に対する学生の意識をアンケート結果から考察した結果、平均的な課題数となる4作品を指定された学生は、無理なく対応するだけの演奏技術を有していることがわかった。7作品以上を指定された学生の場合でも、作品数が「多い」と感じているが、それほど「難しい」とは感じてはいない。本学が実施している「保育（表現・音楽）」における計20作品の弾き歌いの課題が、有効に活かされているということが可能である。またそのことにより、幼稚園教諭に求められる弾き歌いの最低限の技術は有していると考えて問題はない。ただし、第1段階における実習により、ピアノの演奏技術が確認されており、個々の学生に合わせた課題が提示されている可能性もあるため、さらなる経過観察が必要である。

最後に、弾き歌いの指導法について考察した結果、弾き歌いの技術を習得するだけでなく、他の領域と関連付けた指導案を作成し、且つ新たな作品をこどもに教えるための技術、すなわち指導法としての課題が不十分であることを指摘した。部分的には実施されているが、十分な提示と達成を得るためには「保育（表現・音楽）」だけでは不十分であり、「保育内容指導法（表現・音楽）」（仮）としての指導法に特化した科目が必要であるという結論を得た。本学では、「音楽基礎演習Ⅰ」、「音楽基礎演習Ⅱ」、「音楽Ⅰ」から「音楽Ⅳ」、「保育（表現・音楽）」および小学校教諭免許を目指す教育コースの学生が履修する「音楽科教育法」が音楽に関わる科目であり、充実した音楽教育が行われている。さらに「保育内容指導法（表現・音楽）」（仮）を取り入れることで、幼稚園教諭に求められる弾き歌いとその指導法までの教育力を得ることが可能になると考えられ、どのように実施していくかについては今後の課題としたい。

**注釈**

- 注 1) 詳細は後に考察するが、幼稚園によっては課題曲が提示されない場合もある。
- 注 2) 国立情報学研究所：「CiNii Articles - 日本の論文をさがす」「弾き歌い」, <https://ci.nii.ac.jp/search?q=%E5%BC%BE%E3%81%8D%E6%AD%8C%E3%81%84&range=0&count=20&sortorder=1&type=0> (2019.11.20)
- 注 3) 注 2 と同様、「幼稚園 弾き歌い」, <https://ci.nii.ac.jp/search?q=%E5%B9%BC%E7%A8%9A%E5%9C%92%E3%80%80%E5%BC%BE%E3%81%8D%E6%AD%8C%E3%81%84&range=0&count=20&sortorder=1&type=0> (2019.11.20)
- 注 4) 注 2) と同様、「実習 弾き歌い」, <https://ci.nii.ac.jp/search?q=%E5%AE%9F%E7%BF%92%E3%80%80%E5%BC%BE%E3%81%8D%E6%AD%8C%E3%81%84&range=0&count=20&sortorder=1&type=0> (2019.11.20)
- 注 5) 本論では《おかえりのうた》とひらがな書きで統一するが、金指の研究では「お帰りの歌」と表記されている。また、《おはようのうた》というタイトルのこどものための作品は複数存在する。当該論文では作詞、作曲者名が示されていないが、p.204 に示されたリズム譜から同定した。
- 注 6) 《さよならのうた》というタイトルのこどものための作品は複数存在する。当該論文では作詞、作曲者名が示されていないが、p.204 の譜例から同定した。
- 注 7) 病欠などにより修了日は個々に違いが生じており、必ずしも予定通りではない。
- 注 8) 2020 年度からは「保育内容 (表現・音楽)」として実施される。
- 注 9) 《ちょうちょう》などの初歩的な作品がグレード 1 にあたり、左手の伴奏付けは 1 小節あたり主要三和音のうち 1 つあるいは 2 つの和音の打鍵でよい。
- 注 10) 主要三和音をアルペジオに分散することやリズム付けの工夫、あるいは既存のオリジナル・ヴァージョンで演奏することが求められる。

**引用・参考文献**

- 1) 増井啓子：「アンケートから見える教育実習指導の学びと課題：実習事前指導・実習・実習事後指導を通して」、『奈良佐保短期大学研究紀要』, 特別号, p.88 (2018)
- 2) 奈良佐保短期大学地域こども学科編：「2019 年度入学生用 幼稚園教育実習ハンドブック」, p.35 (2019)
- 3) 諸井サチヨ：「保育者養成校での『弾き歌い』指導に関する一考察：学生のピアノ技能に関する実態調査を中心に」, 『淑徳大学短期大学部研究紀要』, 55, pp.81-90 (2016).
- 4) 中村礼香：「保育者養成校における学生のピアノに関する意識調査」, 『鹿児島女子短期大学紀要』, 52, pp.103-108 (2017)
- 5) 南谷悠子：「幼稚園教育実習における弾き歌い活動の考察：学生の「自己評価」と「楽しさ」の観点から」, 『子ども学研究論集』, 名古屋経営短期大学子ども学科子育て環境支援研究センター, 10, pp.49-60 (2018)
- 6) 足立広美, 大澤のり子：「保育者を目指す学生の『ピアノの弾き歌い』の指導法に関する研究 (1) : 本学学生への質問紙調査による実態と課題の把握について」, 『教育学論集』, 創価大学教育学部・教職大学院, 71, pp.95-112 (2019)
- 7) 金指初恵：「弾き歌いに関する一考察：教育実習事前指導の観点から」, 『埼玉学園大学紀要 人間学部篇』, 9, pp.197-206 (2009)
- 8) 荒木美知子, 野村優子, 上藤礼子：「短期大学での保育士養成とその指導の検討：保育実習に関するいくつかのアンケート調査結果の分析から」, 『大阪女子短期大学紀要』, 35, pp.55-69 (2010)
- 9) 石塚将之, 岡泉志のぶ：「幼稚園実習におけるピアノ課題曲(生活の歌)資料：栃木県下の私立幼稚園を中心に」, 『佐野短期大学研究紀要』, 24, pp.69-79 (2013)
- 10) 原友美, 西出悦子：「保育者養成校における歌唱教材の内容とその指導方法：幼稚園教育実習からみた音楽系授業の必要性」, 『瀬木学園紀要』, 14, pp.45-54 (2019)

- 11) 和田垣究, 生地加代, 藤谷智子, 澤田和夫:「幼稚園教諭・保育士に求められるピアノ技能について:園長への調査結果に基づいて」,『武庫川女子大学 学校教育センター年報』, 3, pp.178-184 (2018)
- 12) 10) と同稿, p.48
- 13) 7) と同稿, pp.201-202
- 14) 10) と同稿, p.49
- 15) 7) と同稿, p.202
- 16) 10) と同稿, p.49
- 17) 7) と同稿, p.202
- 18) 9) と同稿, p.73
- 19) 文部科学省:『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』, フレーベル館, p.21 (2017)



別表1 実習先から指定された「弾き歌い」の課題曲

多い順	作品	作詞者	作曲者	指定数
1	おべんとう	天野蝶	一宮道子	31
2	おかえりのうた	天野蝶	一宮道子	22
3	さよならのうた	高すすむ	渡辺茂	9
3	おとうばん	三橋あきら(本多鉄磨)	本多鉄磨	9
4	任意の季節の歌			7
5	かたつむり	文部省唱歌(詳細不明)	文部省唱歌(詳細不明)	6
6	朝のうた	増子とし	本多鉄磨	5
6	ながぐつマーチ	上坪マヤ	峯陽	5
7	あめふりくまのこ	鶴見正夫	湯山昭	4
8	おかたづけ	不明	不明、小林つや江(編)	3
8	とけいのうた	筒井敬介	村上太朗	3
9	おはようのうた	高すすむ	渡辺茂	2
9	大きな古時計	保富康午(訳)	ヘンリー・クレイ・ワーク	2
9	かえるの合唱	岡本敏明(訳)	ドイツ民謡	2
9	くじらのとけい	関和男	渋谷毅	2
9	しゃぼん玉	野口雨情	中山晋平	2
9	小さいお手々	深山澄	大中寅二	2
9	とんとんとんとんひげじいさん	不明	玉山英光	2
9	のんのんののさま	三橋あきら(本多鉄磨)	本多鉄磨	2
9	はをみがきましょう	則武昭彦	則武昭彦	2
9	仏の子供	秋田洪範	澤康雄	2
9	むすんでひらいて	文部省唱歌(詳細不明)	ジャン=ジャック・ルソー	2
9	ゆりかごのうた	北原白秋	草川信	2
10	あしたははれる	坂田修	坂田修	1
10	あまだれぼったん	一宮道子	一宮道子	1
10	ありさんのおはなし	都築益世	渡辺茂	1
10	エのアルペジオ	不明	不明	1
10	園のおかえりのうた	不明	不明	1
10	おお牧場はみどり	中田羽後(訳)	チェコスロバキア民謡	1
10	おたまじゃくしはカエルの子	永田哲夫、東辰三(訳)	アメリカ民謡	1
10	おなかのとけい	筒井敬介	櫻井順	1
10	おはなし	谷口和子	渡辺茂	1
10	おはようのうた	こわせたまみ	大中恩	1
10	おはようのうた	田中忠正	河村光陽	1
10	おひさまキラキラ	まど・みちお	越部信義	1
10	お誕生月なかま	奥野正恭	奥野正恭	1
10	ガーラプイ	安田浩	安田浩	1
10	汽車ぽっぽ	富原薫	草川信	1
10	きょうも元気	柚梨太郎	柚梨太郎	1
10	きれいなものをみるために	不明	不明	1
10	元気いっぱい	二本松はじめ	二本松はじめ	1
10	すてきなパパ	前田恵子	前田恵子	1
10	世界中のこどもたちが	新沢としひこ	中川ひろたか	1
10	誰かが星をみていた	新沢としひこ	中川ひろたか	1
10	手をのばして	不明	不明	1
10	とんとんともだち	サトウハチロー	中田喜直	1
10	にじ	新沢としひこ	中川ひろたか	1
10	ハッピーチルドレン	新沢としひこ	中川ひろたか	1
10	ピクニック	萩原英一(訳)	イギリス(アメリカ)民謡	1
10	ピクニック・マーチ	井出隆夫	越部信義	1
10	ホ!ホ!ホ!	伊藤アキラ	越部信義	1
10	ぼくのミックスジュース	五味太郎	渋谷毅	1
10	みどりのマーチ	井出隆夫	高井達雄	1
10	黙想の歌 I	なし	本多鉄磨	1
10	夕日が背中を押してくる	阪田寛夫	山本直純	1
10	幼稚園園歌	谷口光明	寺田かおり	1
10	輪になって	中千津子	石原喜久子	1